

秋田県立秋田南高等学校 新しい学校づくりを背景に、ICTを活用した外部連携の拡がり（秋田県）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約700名
（うちSGH対象生徒390名）
（1年生は全員対象、2年生からは選択）
- SGH対象学科：
2年生以降は科目選択を希望した生徒を対象とする
- HP：<https://akitaminami-h.wixsite.com/akitaminami/sgh>
- SGH委託費用総額：約3,940万円
（H27～R1：約680万円～約1,000万円）
- 校内の体制：SGH担当の校内分掌を、研修部 SGH研究部 国際教育や教育情報を統合した探究部と変化させ、横断組織で体系的な指導を可能に（指定終了後は探究活動部）
- 国内連携機関：国際教養大学、秋田県立大学、秋田大学、秋田市役所などと協働
- 連絡先
✉ seki-tomoaki@akita-pref.ed.jp
018-833-7431（代表）

何を目指したか

郷土や国家を支える高い志と国際的な視野を備えた
グローバルリーダーの育成

ツールのポイント

- 1 新しい学校づくりを目指す中で、
校務効率化を皮切りにICT化へ第一歩を踏み出す
- 2 中高一貫校の強みを活かし、生徒発意で中学生との協働など、
異学年交流を活かした探究活動を展開

SGH事業実施に
必要だった資源

人員



金銭



時間



心理

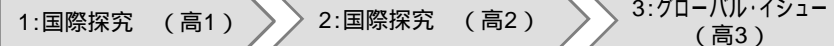
- 海外経験の豊富な国際交流アドバイザーを1名雇用。コーディネート力が高く、コネクションのない中でタイの連携校を新たに確保。
- 海外渡航費用や国内フィールドワークの費用に主に捻出。海外渡航費用の支出上限を受け、渡航先をオーストラリアからタイに変え、より多くの生徒を派遣できるように工夫。教育振興会等の費用も活用。
- 中高一貫とほぼ同時期にSGHが開始し、多忙感が高まる。多忙解消のためICTを積極活用。
- 教員、生徒双方が手探りの中「新しい学校を作る」という共通認識と、グローバルリーダー育成というゴールが明確であったことがエンジンに。さらに1～2年で目に見えた生徒の成長が教員の強いモチベーションに。

Plan

ツール作成の背景

- 以前から英語科やSELHIなど英語に強みをもっていた本校は、農業県であるという地域特性も活かし「世界の食糧問題の解決」をSGHの課題に設定。翌年の平成28年度に秋田県の公立進学校としては初めて中高一貫化。
- 「新しい学校を作っていく」という意識のもとで、教員、生徒の間にSGH事業に意欲的に取り組む空気が醸成され、生徒の主体的・積極的な発意から新たな取組が生まれたり、成果を広く発信し、開かれた学校づくりを目指す雰囲気も生まれた。
- 新しい学校づくりを目指す中で、外部連携も重視し続け、進学校でありながら地域に根付いた連携を拡大。地域に次々と応援団を生み、いい関係を繋ぎ発展させていくことが出来た。

SGH事業計画の流れ



Do

ツールの解説

- ✓ 社会では（大人数へのプレゼンスキルよりも）少人数での対話スキルが必要と考え地元企業、地元行政などの小グループでのグローバルミーティングを実施。
- ✓ 教員以外の大人からの真剣な視点を得られる場で、探究テーマをより自分事に。

✓ ICTツールを活用した外部連携

取組概要

- 多忙化を解消するツールに関心を持った教員の声掛けから、Classi活用の開始。やれる人がやれる範囲で活用しICTへの「面白そう」の雰囲気を校内に醸成。校務効率化を皮切りに授業でのICT活用へ発展。
- 秋田県立大教員からの個別指導やタイの連携校との意見交換（昼休み、放課後）などにClassiやSkype等を活用。
- 外部連携の幅が広がったという実感があがり、コロナ禍においても、オンラインミーティングや動画のやりとりなどを積極的に試行。

成果

✓ 中学生への出前授業など異学年交流

取組概要

- 高校3年次のグローバルミーティングでの地域の大人との真剣な対話を通じ探究テーマ（食品ロス）をより自分事として感じた生徒たち。
- 家庭での食品ロスを減らすためには、中学生へのアウトリーチが必要と感じ、生徒発意で同校の中学2年生に出前授業を実施。
- 出前授業では中高生双方に新たな刺激と学びがあった。この他にも、中学3年生の課題探究の成果発表会等に、同校の高校生が参観、助言をするといった協働も行い中高一貫の強みを活かし続けている。

成果

Check

取組内容の評価

- 国際教養大の実施した「生徒英語不安質問紙」ではプログラム実施前には半数程度が英語への不安を感じていた。一方、実施後には9割近くが不安を解消していると回答している。
- 自主的に社会貢献活動に取り組む生徒数が増加しており、全体の半数以上となっている。例えば秋田市国際フェスタの通訳ボランティアなど、「地域」貢献活動に参加する生徒が多い。
- OBからは生徒の積極性の向上等を評価されているほか、SGHへの期待感をもつ入学生も増えている。

Action

指定期間終了後のいま

- SGHを経験した卒業生たちが、後輩の指導に積極的に関わってくれるように。主体的な進路選択にもつながっている。
- 今後は、SGHの成果を活かし、選択制ではなく3年間全員対象として、探究活動を継続。Skypeを活用した海外連携校（タイ）との連携を継続する他、探究活動に特に注力するクラスも新設（学術探究コース）。